

平成 27 年度 伊都国歴史博物館秋季特別展の開催について

1. 名 称 「玄界灘の波濤を越えて一海が結ぶ人と文化一」
2. 会 場 糸島市立伊都国歴史博物館
3. 会 期 平成 27 年 10 月 6 日(火)～平成 27 年 11 月 23 日(月)
4. 開催趣旨 玄界灘に面し、天然の良港を多く擁する糸島は、古代より国内外との対外交流の拠点として栄えました。また、わが国で最も大陸に近いという地理的な特性は、東アジア諸国との政治、軍事的な事件の舞台ともなりました。
玄界灘一帯で展開された、海を介した人々と文化の交流の足跡を、考古、歴史、民俗など幅広い分野の文化財を用いて紹介いたします。

5. 展示等協力機関

唐津市教育委員会 福岡市博物館 福岡県立美術館 九州大学附属図書館
松浦市立鷹島歴史民俗資料館 雷山大悲王院 聖種寺

6. 関連事業

(1) 特別講演会

期 日 11 月 1 日(日) 14:00～15:30

演 題 「元寇を考古学する一鷹島神崎遺跡の発掘調査から一」

講 師 池田榮史氏いけだよしふみ(琉球大学教授)

内 容 元寇に関連する船が出土したことで有名になった長崎県松浦市の鷹島神崎遺跡の発掘調査の成果を中心にお話ししていただきます。

(2) 特別講座

期 日 10 月 24 日(土) 14:00～15:30

演 題 「丸木舟から構造船へー日本の船のうつり変わりー」

講 師 岩本才次氏いわもとせいじ(久留米工業高等専門学校教授)

内 容 わが国の船の歴史について、船の構造の変遷を中心に解説していただきます。

7. 展示の見どころ

本展示会で注目されるのは、元寇に関する一連の資料です。国史跡鷹島

神崎遺跡から出土した「てつほう」や武器などは、元寇の様子が描かれた「蒙古襲来絵詞」の記載内容を証明する実資料として貴重であり、「青玉製雌雄鹿像」など新たに発見された資料により、元寇研究が新たな局面を迎えつつあります。

また、糸島市潤地頭給遺跡から出土した準構造船の部材も注目されます。わが国で出土した弥生時代の船としては最も残りがよいもので、わが国の造船史を知る上で貴重な資料です。

〈注目の資料〉

- (1) 国史跡鷹島神崎遺跡出土の「てつほう」
 - ◎点数 2点
 - ◎法量 高さ約12 cm、最大径約15 cm、重量約1300 gを測る陶器製の炸裂弾
 - ◎特徴 陶器製の炸裂弾。ほぼ球形を呈する。1か所に穴を開け、ここから内部にものを詰める。「蒙古襲来絵詞」の中に攻める幕府軍の武士の頭上で炸裂する元軍の新兵器と考えられる。内部には火薬と短冊状に割った鉄片、陶磁器片が詰められ、口付近に導火線あるいは有機物の内蓋があったと考えられている。
- (2) 国史跡鷹島神崎遺跡出土の青玉製雌雄鹿像
 - ◎点数 1点
 - ◎法量 高さ3.45 cm、厚さ1.8 cm、重量18 gを測る。
 - ◎特徴 鹿をモチーフにした装飾品で、両面にそれぞれ牝鹿と牡鹿を削り出している。帽子の装飾品と考えられていて、元軍の司指令官クラスの所持品とみられている。
- (3) 「蒙古襲来絵詞」(九大本)
 - ◎点数 2軸(上・下)
 - ◎特徴 18世紀以降、「蒙古襲来絵詞」は大名や文人らによって多くの摸本が作成された。現在40種を超える摸本が知られ、そのなかでも成立の時期が早い系統のものと考えられている。これらの摸本には、原本(宮内庁所蔵)で失われてしまった貴重情報が含まれており、これら摸本の詳細な分析によって多くの新知見が得られている。原本は御物であり、それを忠実に摸した貴重な資料として注目される。
- (4) 潤地頭給遺跡出土の準構造船部材
 - ◎点数 7点
 - ◎法量 船底部残存長1.5m、船尾部残存長1.2m、舷側板残存長1.5mを測る。
 - ◎特徴 出土した部材は船底部4枚、船尾部2枚、舷側板1枚の計7枚。最大4隻分の部材である。全長約6m程度の船が想定されている。時期は弥生時代後期後葉～末期。当時の造船技術や船の構造を知る上で多くの情報を与えてくれる。